

# 私立探偵 K-FILE

## 企業調査 case#6 東京、ニューヨーク、ロサンゼルスで 経験した出来事を赤裸々に語る連載！ 私立探偵ケンジの実話体験「調査日誌」

新たな取引を始める前に相手先企業の信用調査を行うことは今や当たり前となっているが、こういった僅かな労力を惜しんだために多額の損失を負ってしまった日系企業が後を絶たない。事前調査には大手データバンク等の企業信用レポートが利用されがちだが、これらのデータは対象企業の自己申告に基づいて作成されており、当然ながら企業側に都合の良い内容となっている。“表向きは問題がなさそうだが実際のところどうなのか…”こういった疑問に答えるために我々が企業の実態を調査するのである。

【プロフィール】  
ケンジ yamakenusa@aol.com  
神奈川県出身。ニューヘイブン大学、大学院上級捜査コース修了。日本の危機管理会社で探偵・ボディガード業務に従事した後、本場の技術を学ぶために渡米。ニューヨークの探偵社にて経験を積む。その後カリフォルニアに移り、私立探偵ライセンス取得。現在はLAを拠点に調査業を展開中。



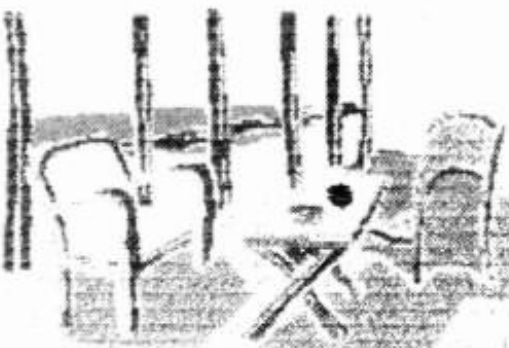
S社のような中小企業はいわゆるワンマン企業であることが多く、企業自体の調査に加えて代表者自身の信用調査を行うことも不可欠だ。我々はまずこの企業の代表、M氏について調査を行った。そしてM氏は3年前に離婚し、2人の子供の親権を失っていること、家庭内暴力で逮捕歴があることが分かった。また、州や連邦からは税金滞納で、金融機関からは支払い遅延で複数の判決が下がっていることも確認された。さらにこの人物は社会保険番号を2つ使用していることも判明。一概には何も言えないが、何かあることは間違いない。

次にS社について調査を実施したところ、この会社はここ2年間で事務所を4回も変えていることが分かった。住所を変更することは企業にとって大きな負担を伴う。金融機関への届出、レターヘッドや名刺の変更、取引先への挨拶等々、こなさなければならない作業が山とあるからだ。まともな企業であれば頻繁に所在地を変えるようなことはしない。レッドサインである。また、S社の訴訟歴を調べてみると、契約不履行、支払滞納などで10以上もの記録が確認された。さらに詐欺事件として警察が動いているという情報も入手し、早速、担当刑事へインタビューを行ってみた。この刑事によると、現在は刑事事件として立件する予定はないものの、ビジネスに関連したS社に対するクレームが多く寄せられているとのこと。実際詐欺の立件は難しいので、彼らも慎重にならざるを得ない。何か新しい情報が入ったら流してもらおう頼んでおく。

S社の資産関係についても調査を行うが、クライアントに伝えていたものとは程遠い内容であり、ごく僅かな預金と担保だらけの不動産が確認されただけであった。

S社の所在地とされる場所はLAからさほど離れていなかったため、私は現場に足を運んでみた。さびれた地域にある雑居ビルの一室であった。看板等は掲げておらず、その小さな一室さえも複数の企業でシェアしている様子である。奥から億劫そうに出てきた男性は別の会社の留守番らしく、“S社？最近は見えてないねえ”とのことだった。

代表者の逮捕歴、契約不履行を含む多数の訴訟記録、詐欺容疑、実態不明な事務所。クライアントが今回の取引を見送ったのは言うまでもない。我々の調査で判明した事項はもちろん一般の企業信用レポートには記載されておらず、安易に取引を開始していたならば、K社の存続に関わる事態に発展していたことだろう。



東京に本社を構えるK社は大手食品業者である。K社は新たな商品をアメリカから輸入すべく、カリフォルニアのS社を紹介されたとのこと。某企業データサービスを利用してS社の信用状況を確認したところ、従業員数が10人以下ながら、特段問題はなさそうであった。しかしながら、今回の取引額はかなりのものであったことから、念には念を入れてということで我々に信用調査を依頼してきた。